

北
京
大
海
報
社
印
三
月
一
號
大
英
皇
室
御
覽
書



大正

八年

月

八
日



鋼

商

勝

本

忠

兵

衛

商

店

大阪市西區南堀江通壹丁目

電話番號 西園一七六二番
振替口座 大阪四五〇五八番

会社
株式
加島銀行南支店

かのねの家を押す御清美
金の風の山は又入
地を定め涼風吹き高
仰らむしきとて是がお
而の事は多様政教大
先月三十一日未明に始
の内又一ヵ月余りの間
今も改めど已に住ま
家に引傳入れられ、之が
ゆきれりやと筆手に歸る
やもよ情々ちからく來る
十二月の末役合ひを終
次第移し一ヶ月程餘
の間の内城は温泉一室
の如く御方様の廬

之江
のまゝの城山温泉
リは初号林の戸ノ
之一月定湯、9、年2
御詫びの御承認をう
仰取是下の用い内
引物が往々寄附を
望一軍上機工産牛
車乃り第ニ謹
第ニ仰一の不思議
たすき力ある後猪
若出生仰る而無の味
方と仰れし心地此の品
其隆光元の「新松」
之一見せらる聲
共下之全付申

此一見せらるる聲に
立つて下りて向はせたすと聞こ
立派なる人なり予不肖が
れども君の(かも)後援者
となり居たり勝利と云
へゝもひし意を強くせ
らしく申され候事と化
あして一年上の第々號へ
さりと林氏、うれしき
ゆきすりやわ仰るが如え
の如く友人、大手術とは
けられた者あり其の如く
行かねばやうぬゑよ、
か生の恩人、金葉をあつて
彼處死去又名社の

行かねばやうぬる、
の生の恩人全孝の
生此等死去又名社の
方々金銀出納の事
件上此種の必要ある
所に石縁其處に付
ての記述少くても強
筆上紙の事多忙
あつて書寫上難いと
明けたり而以ての事
所が乞お在中(涅槃)
先君が全跡生懶の事
望す思ひをもとのめ
國相國子清公也

銀河の星のうち

國松樹の下に

立つお家ありひづり

木門、ほら山づれや

之れ山の下にま

アハ後塔はれや

先達の若よめ

アハ后塔はれや

山里の風すすむ

庄屋さへあそぶ

九月の月

山中を

翁主の宿

アハ後悔はれど

失ふから若き頃

アハ后悔はれど

失ふから若き頃

山里の夕暮れ

九月の夕暮れ

今も此を

アハ後悔はれど
失ふから若き頃

アハ后悔はれど
失ふから若き頃

アハ后悔はれど
失ふから若き頃

アハ后悔はれど
失ふから若き頃

アハ后悔はれど
失ふから若き頃